

工事説明書

SBバーナー

型名 SB-76

このバーナーは当社が指定したマキ焚兼用ふろがまと組み合わせて使用するもので、それ以外の用途での使用を禁じます。

型式の呼び	組み合わせ	型名
CHS-6	かま	CHC缶
	バーナー	SB-76
CH ₂ S-6	かま	CH ₂ C缶
	バーナー	SB-76



もくじ

特に注意していただきたいこと	2
付属品の確認	6
別売部品	6
据付け	7
電気配線	9
リモコンの接続	10
据付工事後の点検・確認	11
試運転	11
引き渡し	12
廃棄するときの注意	12

- 機器を据付ける前に必ずこの工事説明書をよくお読みの上、正しく据付けてください。
なお、この工事説明書は工事終了後、取扱説明書と共に必ずお客様にお渡しく下さい。
- 製品改良により、本体・仕様などが説明書の内容と異なる場合がありますので、あらかじめご了承ください。




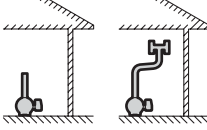

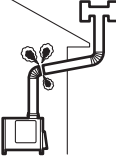




特に注意していただきたいこと

- 機器を据付ける前に、よくお読みいただき、正しく据付けてください。
- ここに示した事項は、危害・損害の程度によって次のように分類されます。いずれも安全に関する重大な内容を記載していますので、必ず守ってください。

 警告	この表示を無視して作業を誤った場合に、作業者またはその作業後の不具合によって使用者が死亡、重傷を負う可能性、または火災の可能性が想定される内容を示しています。
 注意	この表示を無視して作業を誤った場合に、作業者またはその作業後の不具合によって使用者が軽傷を負う可能性、または物的損害の発生が想定される内容を示しています。

- 絵表示について次のような意味があります。

	一般的な禁止		必ず行うこと		アースを接続すること		電源プラグを抜くこと
---	--------	---	--------	---	------------	--	------------

 警告	
<p>火災予防条例、電気設備に関する技術基準、電気工事はそれぞれ指定の工事店に依頼するなど法令の基準を守ってください</p>	
<p>据付けや移動は、販売店または据付業者が行ってください</p> <p>●お客様ご自身で据付けをされ、不備があると感電や火災の原因になります。</p>	
<p>屋内排気禁止</p> <p>●屋内に排気すると排ガスが室内に充満して危険です。必ず屋外に排気してください。</p>	 
<p>煙突は確実に接続</p> <p>●煙突は確実に接続し、しっかりと固定してください。風・振動・衝撃などではずれたりすると運転中に火の粉や排ガスが室内に漏れて危険です。</p>	 
<p>浴室内の設置禁止</p> <p>●浴室には絶対に設置しないでください。酸欠事故・火災・感電の原因になります。</p>	
<p>屋内に設置する</p> <p>●この機器は屋内設置専用です。屋外には設置しないでください。火災や感電の原因になります。</p>	
<p>配線がバーナー・かま・煙突などの高温部に接触しないこと</p> <p>●電源コードやリモコンコードがバーナー・かま・煙突などの高温部に接触しないように配線してください。火災や故障の原因になります。</p>	

警告

煙突は当社指定のもの(H型トップ)を必ず使用する

●指定以外のものを使用した場合は、火災の原因になります。



注意

次の場所には据付けない (火災や予想しない事故の原因)

- 水平でない場所、不安定な場所
- 不安定な物を載せた棚などの下
- 可燃性ガスや腐食性ガスの発生する場所、またはたまる場所(マンホールや排水口などに近い場所)
- 燃焼に必要な空気を取り入れる空気取入口のない場所、または換気が行えない場所
- 付近に燃えやすいものがある場所
- 階段や避難口などの付近で避難の支障となる場所
- 標高1,000mを超える場所
- 湿気の多い場所
- 排水しにくい場所
- 雨水のかかる場所
- 屋外
- 浴室

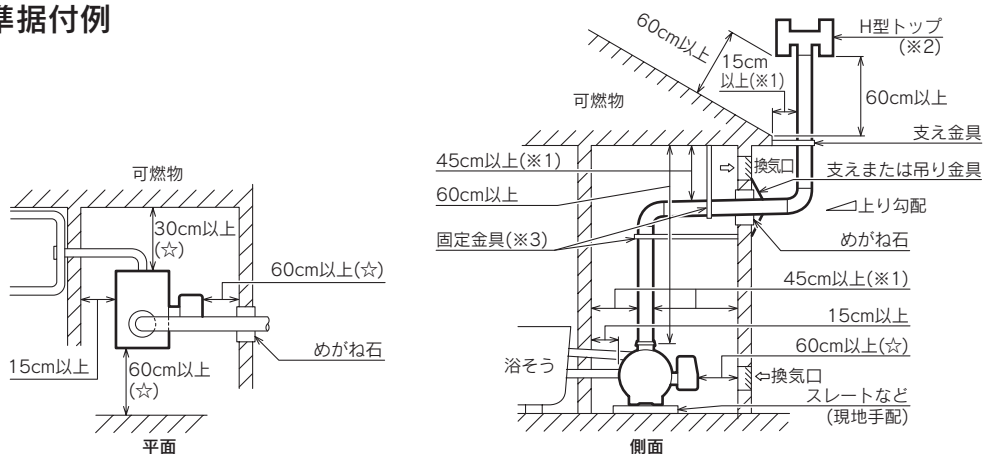


可燃物との距離を離す

- 機器の周囲に可燃物がある場合は、図の離隔距離を守ってください。防熱板、不燃材の場合は離隔距離が緩和されますので、各地域の火災予防条例を参照してください。(図はバーナーを取付けた寸法です。)
- 機器は金属製以外の不燃材(スレートなど)の床上に据付けるか、または防火上有効な措置を講じた金属製の台上に据付けてください。



標準据付例



- (※1) 煙突は機器から180cm以内では45cm以上、180cmを超える場合は15cm以上離すこと。
(※2) 煙突の先端から水平距離1m以内に建築物の軒がある場合は、その軒から60cm以上高くすること。
煙突の先端から1m以内に建物の開口部(窓)がないこと。
(※3) 煙突は固定金具で1.5~2m間隔で固定し、自重を支える部分は支えまたは吊り金具で堅固に支持すること。
固定金具を2本以上使って、煙突が抜けたり倒れたりすることのないように固定すること。
(☆) 印の寸法はサービススペースとして必要な寸法です。

特に注意していただきたいこと

⚠️ 注意

換気口を設置する

- 屋内やボイラ室に設置するときは燃焼に必要な空気を充分確保するため、上下2箇所に換気口を取付けてください。換気口の有効開口面積はそれぞれ260cm²以上です。ガラリを取付けたときは、ガラリの種類に応じて有効開口面積に表の数値を乗じたものを最小面積とします。

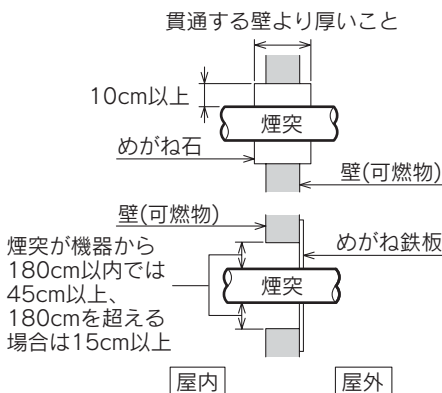
スチールガラリ	2.0
木製ガラリ	2.5
パンチングパネル	3.4

〔例〕スチールガラリを取付けた場合
260cm²×2.0=520cm²以上
が2箇所です。



家屋貫通部の注意

- 煙突が可燃性の壁などを貫通する部分は、必ずめがね石かめがね鉄板を使用してください。
- 小屋裏・天井裏などにある部分は、金属以外の不燃材料で防火上有効な被覆を行ってください。
- 可燃性の壁・天井・小屋裏・天井裏などを貫通する部分およびその付近では、煙突を接続しないでください。
- 地域により異なることがありますので、各地域の火災予防条例を参照してください。



煙突の固定

- 煙突は風や振動などで倒れないよう、支え金具や支え線などで固定してください。
- 煙突は固定金具で1.5~2m間隔で固定し、自重を支える部分は支えまたは吊り金具で堅固に支持してください。
- 機器の接続口に煙突をねじ(1本)で固定してください。



煙突の交換

- 機器交換時には煙突・煙突トップ(Hトップ)・固定金具も交換してください。
- 異径煙突は使用しないでください。



煙突の点検

- 煙突の取付けが終わりましたら、もう一度点検してください。次のような取付けは危険であったり、不完全燃焼のおそれがありますので、必ず修正してください。



<p>下り勾配、下向き曲がり禁止</p>	<p>トップと建物(隣家を含む)の開口部(窓など)は1m以上離れていること</p> <p>1m以上</p>	<p>トップは屋根から垂直距離で60cm以上離れていること</p> <p>60cm以上</p>
----------------------	---	---

⚠ 注意

ゴム製送油管の使用禁止

- 必ず付属の金属製の送油管(銅管)を使用し、ゴム製送油管は絶対に使用しないでください。高温部に触れて火災の原因になります。



他社製品や指定以外のかまとバーナーの組み合わせで設置しない (事故の原因)

- ふろがま(かま・バーナー)は必ず当社のカタログ・取扱説明書・工事説明書に記載している正しい組み合わせで使用してください。バーナーをはずして、他社のかまにセットしたり、ふろがま以外の目的に使用しないでください。



作業時は保護具を着用する

- 作業時は手袋などの保護具を着用してください。けがの原因になります。



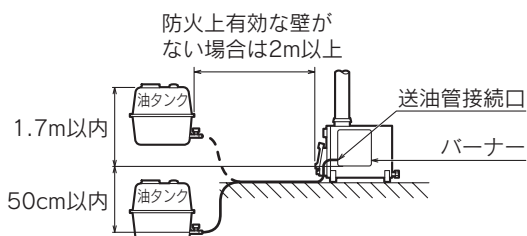
家庭用のふろ以外の使用禁止

- この機器は家庭用です。家庭用のふろ以外に使用すると保証の対象外になります。



油タンクとの距離を離す

- 油タンクは機器より2m以上離して据付けるか、防火上有効な遮へいを設けてください。
- 油タンクは不燃材でできた水平な基礎の上に据付けてください。



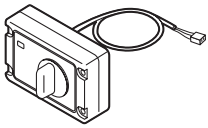


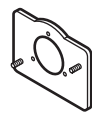


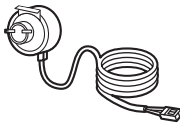





アース工事をすること

- アース工事を確実に行ってください。故障や漏電のときに感電するおそれがあります。



付属品の確認

●梱包されている付属品に不足がないことを確認してください。

			 バーナー口フランジ部 にあります。
リモコン一式(※)	バーナー口パッキン	バーナーフランジ パッキン	バーナー取付フランジ
			
送油管	ナット (2個)	空だき防止装置	ニップル
			 別梱包
注意書	取扱説明書 (保証書付) 工事説明書	所有者票袋 (所有者票・保護シール) (特定保守製品説明書・注意書)	油タンク (送油バルブ付…20L)

※付属品は「リモコン工事説明書」参照。

別売部品

●リモコン(TS-10)

●リモコンパイプセット(RPS-2)

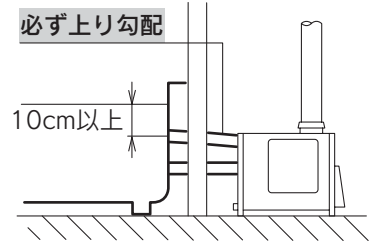
●延長用リモコンコード

据付け

「特に注意していただきたいこと」の項も必ず確認してください。

1 機器の設置

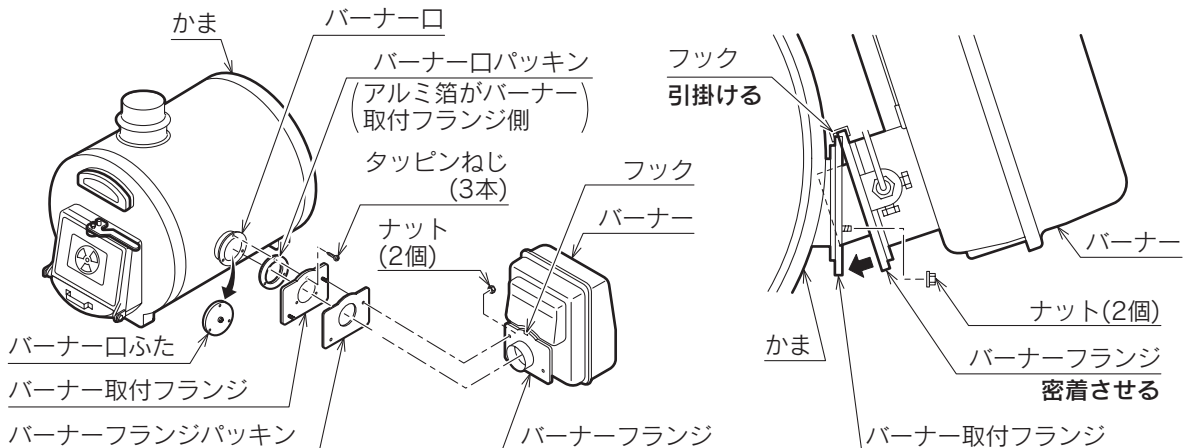
- 機器は必ず水平に置かれていることを確認してください。
(水準器などで確認してください)
傾いていると対震自動消火装置が誤動作します。
- 機器をコンクリートなどで埋め込まないでください。
- 設置床面は凹地にしないでください。
水やゴミがたまって機器の不具合の原因になります。
- 循環パイプが浴そうに向かって上り勾配になるように配管してください。



焼却口側が高くなると空だき状態になり、火災・過熱・水漏れの原因になります。

2 かまへの取付け

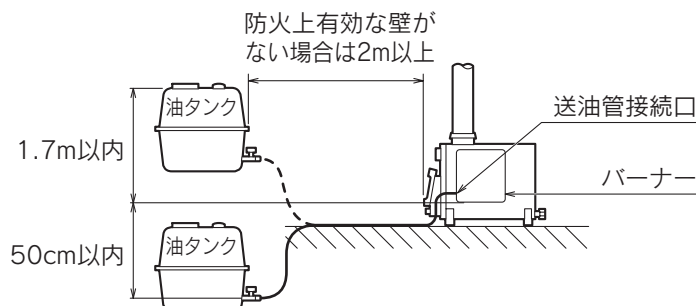
- バーナーフランジ上部にはフックがついています。
フックを引掛けないとバーナーの固定が不安定になり、安全装置が誤動作する原因になります。
 - バーナー口に隙間がないように固定してください。
 - 水準器を見ながらバーナーが水平になるように固定してください。
1. かまのバーナー口ふたのタッピンねじ(3本)をはずして、バーナー口ふたを取りはずします。
 2. バーナー口パッキンをバーナー口とバーナー取付フランジの間にはさみ、1ではずしたタッピンねじ(3本)で固定します。
 3. バーナーフランジパッキンをバーナー取付フランジとバーナーフランジの間にはさみ、バーナーフランジのフックをバーナー取付フランジに引掛けます。
 4. フックを軸にしてバーナーフランジをバーナー取付フランジに密着させて、ナット(2個)で固定します。



据付け

3 油タンクの設置

- 機器と油タンクの間に防火上有効な壁がない場合は、機器から2m以上離して設置してください。
- 不燃材でできた水平な基礎の上に設置してください。
- 風通しがよく、できるだけ直射日光が当たらない場所に設置してください。
- 油タンクの容量が200リットル以上の場合は、消防署への「危険物の貯蔵・取扱届」が必要です。ただし、個人の住宅に設置するときは不要となる場合があります。詳しくは各地域の火災予防条例を参照してください。
- 油タンクの高さは図を参照してください。

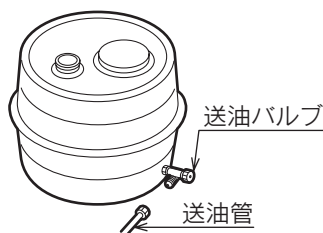


4 送油管の取付け

⚠ 注意

- 接続部から油漏れがないように注意してください。
- 送油管は必ず金属管（銅管）を使用し、ゴム製送油管は絶対に使用しないでください。高温部に触れて火災の原因になります。

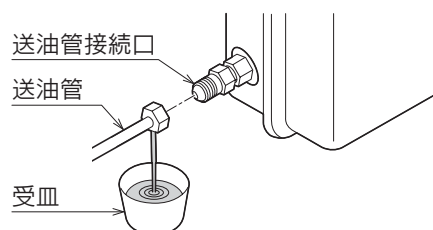
- 送油管が途中で逆U字配管になって、空気だまりができないようにしてください。
- 送油管内のゴミなどを取除いてください。
- 送油管接続口に送油管をしっかりと接続してください。
- 図のように油タンクの送油バルブに送油管を接続してください。



5 送油経路の空気抜き

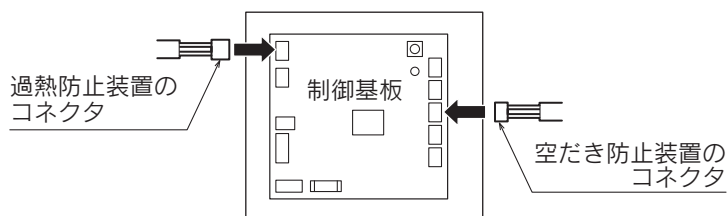
1. 送油管の下に受皿などを置きます。
2. 油タンクの送油バルブを開け、送油管から灯油が連続して出てきたら送油バルブを閉めます。
3. 送油管をバーナーの送油管接続口に接続します。
4. こぼれた灯油をふきとります。

※ 試運転時に電磁ポンプ内の空気が抜けるまで振動音が出たり、着火しないことがあります。故障ではありません。



6 空だき防止装置・過熱防止装置の接続

- 1.バーナーカバーをはずします。
- 2.空だき防止装置と過熱防止装置のコネクタをバーナー下面の配線取出口から内部に入れて制御基板に差し込みます。
バーナーカバーは「リモコンの接続」を行うまではずしたままにしてください。



電気配線

警告

- 電源コードの届く範囲にコンセントがないときは、電力会社の指定工事店に依頼し、所定の電気配線をしてください。絶対に電源コードを切断して延長しないでください。火災や感電の原因になります。
- 電源コードは束ねたまま使用しないでください。余った電源コードやアース線はバーナー内に入れないでください。火災の原因になります。
- 電源コードがかま・バーナー・焼却口・煙突などの高温部に接触しないように配線してください。

使用電源

- 電源は必ずAC100Vを使用してください。
- 絶対に200Vに接続しないでください。機器が破損します。

電圧降下

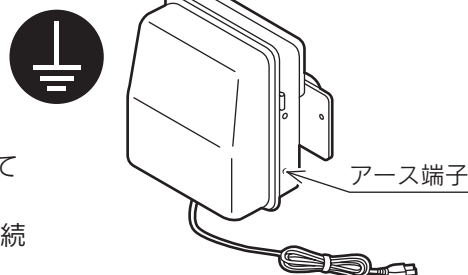
- 電圧が降下すると故障・誤動作の原因になります。

電源周波数

- この機器は50Hz・60Hzそれぞれ専用です。
地域の電源周波数に一致していることを、必ず確認してください。

接地(アース)

- アース工事を確実に行ってください。
アースが不完全な場合は、感電するおそれがあります。
- バーナーの右側面にアース端子を表示してあります。
電気設備に関する技術基準に基づき、D種接地工事を行ってください。(接地抵抗100Ω以下)
- アース線はガス管・水道管・避雷針・電話のアース線に接続しないでください。



リモコンの接続

警告

- リモコンコードがバーナー・かま・煙突などの高温部に接触しないように配線してください。火災・故障の原因になります。また、リモコンコードは切断して使用しないでください。
- 余ったコードは機器外でまとめ、バーナー内に入れしないでください。またリモコンコードは切断して使用しないでください。

- この機器はリモコンを取付けないと操作できません。また別売のリモコンが接続できます。
- 機器とリモコンの接続は小勢力回路の工事に該当し、電気工事士の資格がなくても工事できますが、電気設備に関する技術基準に従って工事を行ってください。
- リモコンコードは電源プラグを抜いた状態で接続してください。

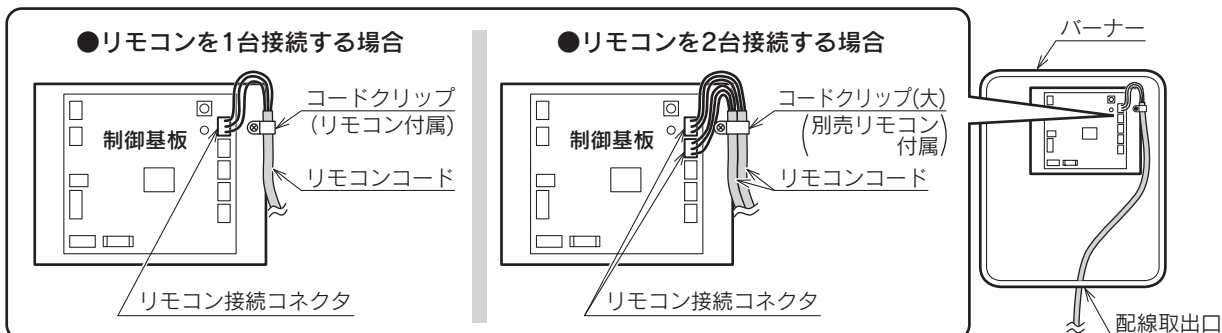


リモコン取付け

リモコンの取付けは付属の「リモコン工事説明書」をご覧ください。

機器との接続

- 1.電源プラグがコンセントに差し込まれていないことを確認します。
電源プラグを差したままリモコンコードを接続しないでください。
- 2.バーナー下面の配線取出口からリモコンコードをバーナー内部に入れます。
- 3.制御基板のコネクタにリモコンコードのコネクタを差し込みます。
リモコンを2台取付ける場合は、もう一方のコネクタに差し込んでください。
- 4.リモコンコードをコードクリップでしっかりと固定します。
リモコンを2台取付ける場合は、リモコン付属のコードクリップ(大)で2本いっしょに固定します。
- 5.バーナーカバーを元通りに取付けます。



据付工事後の点検・確認

- 据付工事が終わりましたら、もう一度確認してください。

機器およびその周辺

- 設置条件を満たしていますか。
- 可燃物との距離および防火上の処置は充分ですか。
- 機器や配管の接続部に水漏れはありませんか。
- 機器・油タンク・送油経路に油漏れはありませんか。
- 点検・修理など保守・管理上必要なスペースがありますか。

電気配線工事

- 機器およびリモコン配線は指定された工事で行われていますか。
- D種接地工事は行われていますか。

試運転

- 試運転は必ずお客様と一緒に行ってください。

1 試運転

- 取扱説明書の「据付け」の「試運転」に従い、試運転を行ってください。

2 お客様がすぐに使用されない場合

- 試運転後、機器や配管内に残った水をお客様が使用されるまで放置すると、凍結して機器が破損したり、機器内の水が変質したりすることがあります。必ず水を抜いてください。
(取扱説明書参照)

引き渡し

お客様への説明

- 取扱説明書に従って取扱方法をお客様に説明してください。
- 保証書に必ず必要事項をご記入のうえお客様にお渡してください。
(保証書は取扱説明書の巻末です。)
また、取扱説明書に従って「アフターサービス」について説明してください。

所有者登録

- この機器は消費生活用製品安全法の『特定保守製品』に指定されています。
お客様に「法定説明事項」をご説明の上、所有者登録(所有者票(はがき)の返送)について説明してください。

廃棄するときの注意

- 機器を廃棄するときは、必ず灯油を抜いてください。
リサイクルの支障となります。

住宅設備機器総合メーカー
株式会社 長府製作所



●本社 〒752-8555 山口県下関市長府扇町2-1 ☎(083)248-1111
FAX(083)248-1906